

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立楠見小学校	岡本 晶彦
学校所在地		
〒 6 4 0 - 8 4 7 2 tel 0 7 3 (4 5 5) 1 7 1 4 fax 0 7 3 (4 5 5) 1 5 7 8 e-mail kusumi-es@wakayama-wky.ed.jp		
担当者名		役職名・担当教科
楠見 旬平・中村友香		教諭・
〔学校の概要〕 明治26年1月13日、大谷・粟・平井・善明寺の4小学校を合併し、楠見尋常小学校として発足。 児童数の増加に伴い、昭和58年に楠見西小学校、昭和59年に楠見東小学校に分離し、現在に至る。 平成28年度児童数406名、内6年生は、63名である。		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 63名	2名 職員 2名	教室・パソコン室
実践研究テーマ		
世界遺産の学習・体験を通し、世界遺産の価値を知り、郷土の素晴らしさに気づき、郷土を愛する心を育てる。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習	紀伊山地の霊場と参詣道 ～熊野古道を知ろう～	
〔キーワード〕 世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道		
〔単元目標〕 ① 世界遺産を調べ、ユネスコの働きや遺産について知ることによって世界遺産の必要性について考えることができる。 ② 実際に熊野古道を歩いたり本宮大社を見学したりすることで本県に素晴らしい世界遺産があることを実感し、これから自分たちが受け継いでいくために、何ができるか考えることができる。		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 16 時間 （「 紀伊山地の霊場と参詣道 」 13 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター・・・世界遺産講座		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	・世界遺産について学習する。	・世界遺産について知っていることを出し合う。世界遺産に興味を持たせる。	(意欲・関心) 行動観察
2	・「紀伊山地の霊場と参詣道」について学習する。	・高野山や熊野古道・熊野について興味を持たせる。	(意欲・関心) 行動視察・資料
3	・熊野古道について調べる。	・調べたいこと別にグループを作りインターネットやしおり等を使って調べさせる。	(情報収集能力) ワークシート
4	・熊野古道を歩く。 ・世界遺産マスターに熊野本宮大社・熊野古道等について話を聞く。	・自然とふれあいを持たせる。 ・自分たちが事前に調べたことと関連付けながら、「紀伊山地の霊場と参詣道」について関心を深めさせる。	(情報収集能力) ワークシート 作文
5	・事前に学習したことや実際に体験したことをまとめる。	・自分たちの感じたことや新たに知ったことを相手に伝えるように表現させる、	(情報収集能力) 発表
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>【成果】</p> <p>今回の学習で、「和歌山県にある世界遺産」ということで、かなりの関心を持って学習を進めることができ、どの子も意欲的に取り組めた。また、調べ学習の中でも他のグループとのかかわりも多く、より熊野古道や熊野について知ることができた。実際に現地での学習をしたことで、インターネット等で得ていた情報以上に深く学習できた。世界遺産に対する関心や興味がより増大したようである。</p> <p>【課題】 今回の現地学習の計画で、現地についてからの学習時間が少なかった。本校より現地までの移動時間が思ったよりかかった。また、当日天候が悪く加えて前日よりの雪で、子ども達がとても期待していた熊野古道を歩くことができず大変残念であった。</p> <p>計画段階で、天候が悪い場合の代替え案や工程に費やす時間など綿密に計画しておく必要があった。</p>			
<p>〔世界遺産学習の効果〕</p> <p>学習の成果でも書いたように、子ども達が今回の学習で自分たちの県にある「世界遺産」について学習したことで、興味関心が深まったことは確かである。また、高野山のほうも学習してみたいとの子供の感想もあった。日本にある「世界遺産」をはじめ、世界中にある「世界遺産」にも目を向ける子どもも多かった。</p>			
<p>〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕</p> <p>世界遺産の学習は、実際に現地に行き世界遺産マスターさんの話を聞いたり、建物を見たりすることが子供たちにとってより深い学習となる。今後もこのような取り組みが続けられることを願います。</p>			



《児童の感想文より》

私はこの体験学習で、和歌山県に住んでいても熊野古道について知らないなんてさみしいことだなと感じた。あんなすばらしく、世界に誇るべき遺産をほっておくなんてありえない。世界遺産センターの方の話や世界遺産マスターさんの説明を聞くと、きっと誰もが同じように思うはずだ。

世界遺産センターの方は、世界遺産について説明をしてくださった。熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されたのは、テストに合格したからだという。「みなさんは私たちの世界遺産は何遺産かわかりますか。自然遺産だと思う人が多いと思いますが、文化遺産なんです。」聞いてすぐにはわからなかった。「あんなにたくさん木があるのになぜ文化遺産なのだろう。」と思った。しかし実際に古道の景色を見て分かった。古道には王子社跡があり、歴史的建造物もとても美しかった。

世界遺産マスターさんは、王子のことや木のことなど、色々たくわしいことを教えてくださった。中でも一番心に残っているのは王子の名前の由来だ。なぜ九十九王子なのか。それは、九十九あったということではなく、たくさん王子があったという意味だそうだ。

熊野古道は大きな木に囲まれているし、地面は元気に張った根と美しい黄緑のコケにおおわれている。昔の人たちが守ってきた自然や景色をこわさないようにしなければならないと思う。だから私は、これからは、自然を大切にして熊野古道を守っていきたい。

